

オープンファクトリーを活用した初年次教育における 地域産業理解の促進と企業への波及効果

○梅津 彩音（香川大学地域人材共創センター），神田 亮（香川大学地域人材共創センター）

1. オープンファクトリーへの学生参加

オープンファクトリーとは、ものづくり企業が生産現場を公開し、来場者に製造工程やものづくり体験を提供する取り組みである。近年では、企業単独で行うのではなく、地域内企業が連携し地域全体の魅力を発信するイベントへと発展している¹。岡村ら(2016)²によれば、オープンファクトリーは、工場公開を契機に企業間ネットワークが形成され、商店街との連携や地域イメージの発信を促進することから、「まちを開くイベント」としても期待されるとしている。

香川県では、東讃地区および小豆島で「CRASSO（クラッソ）」と呼ばれるオープンファクトリーイベント（以下、イベント）が開催されており、「社員の家族や地域住民、学生に自社の魅力を伝える貴重な機会となり、地域経済全体にも波及効果をもたらして³」いる。

2. 授業の概要

香川大学では、初年次向け全学共通科目「香川で学ぶ地域・地場産業体験」を開講している。本授業は、香川県内の特徴ある地場産業や企業の仕事を通じて、企業と地域を理解し、地域課題に対する企業の取り組みを学び、企業と共に解決策を考えることを目的としている。本稿は2025年度前期に開講した授業について述べる。

CRASSOは、地場産業が参加するイベントであり、学生にとって地域と企業のつながりを広い視野で体感できる機会となることから、CRASSO事務局へ依頼し、27名の学生を東讃地区の6社に受け入れていただいた。授業は2段階構成で、第1段階では学生が企業理解を深めたうえでイベントに企業の一員として参加するもの。第2段階はイベント終了後に、企業から提示された課題に対し意見交換を行い、課題解決案を考えるものとなる。イベントまでの授業の流れは表1のとおり。

表1. イベントまでの授業の流れ

授業第1回	本授業の流れについて教員から説明。
授業第2回	学生が興味のある企業のホームページやSNSについて調べる。
授業第3回	CRASSO事務局代表が来校、中小企業について学生へ説明、質疑応答。
授業第4回	CRASSO事務局代表および学生受入企業が来校、自社について学生へ説明、質疑応答。
授業第5回	学生の受け入れ先を決定。
イベント前	企業についてのインプット（オンライン併用）、イベントの準備。
イベント本番	各企業にて活動。

3. イベントでの学生の活動内容

イベントにおける学生の活動は主に来場者への企業案内であり、定型的な説明やクイズ進行を担当した（写真1）。来場者からの質問に対応できない場合には、同行する社員が補足説明を行った。さらに、一部の学生は製品の販売促進や、ものづくり体験のサポートを担当した（写真2）。来場者数に変動がある企業では、学生が空き時間を活用して近隣企業のオープンファクトリーを見学したり、授業の第2段階に関連する課題について社員と意見交換を行うなど、学びを広げる取り組みも見られた。

4. 学生の声

イベント終了後、学生を対象に実施したアンケートから、以下の感想が得られた（一部抜粋）。

- 急遽、企業案内を担当することになり、企業から渡された原稿をもとに、来場者に分かりやすく伝える方法をその場で考え、改善しながら案内を行ったことが印象に残っている。
- 来場者に対して、お酒の蒸溜方法や熟成工程を自分の言葉で説明したことが特に記憶に残った。地元産サトウキビを活用した製造過程や樽での熟成の仕組みを学び、自分の口で伝えることで理解がより深まったと感じた。
- 地場産業は競争が激しく協力の余地が少ないと思っていたが、CRASSOでは企業間の協力が目に見える形で存在していた。さらに、地域住民も協力して産業を支えようとする姿勢が感じられた。
- 実際に企業を訪問し体験することで、教室では得られない貴重な経験を得ることができた。働くこと

のやりがいや責任感も実感した。

学生の感想から、本取り組みは知識獲得型学習から実践的・主体的学習への転換を促していることが明らかである。特に、企業案内や製造工程の説明を「自分の言葉で伝える」経験は単なる情報受容にとどまらず、理解の深化とコミュニケーション能力の向上に寄与していることが示唆される。

5. 企業の声

CRASSO 事務局および企業からは以下のコメントが得られた（一部抜粋）。

- 来場者対応に追われる企業から、「学生が来場者対応を担ってくれて非常に助かった」というコメントが複数寄せられた。
- 来場者への企業案内を学生に一任した結果、学生は企業情報を積極的に理解しようとし、どのように伝えるかを主体的に考える姿勢が見られた。この経験により、企業への愛着が芽生え、社員との関係性が深まることで、今後の意見交換が円滑になると感じた。
- 学生に対して企業説明を行う社員にとっても、自社の企業理念や業務内容を言語化する過程で自己の仕事の振り返る機会となり、普段は製品と向き合う社員にとっても貴重なアウトプットの場となった。
- 初年次教育でこの取り組みを実施する意義は大きい。インターンや採用面接のように立場の優劣が生じる場面では率直な意見交換が難しいが、本取り組みでは企業と学生がフラットな関係で交流できる点が評価された。
- 一方で、学生に何をどこまで任せるかの基準が明確でなかったため、企業ごとに取り組み内容にばらつきが生じた。

企業側のコメントから、本取り組みは単なるイベント支援にとどまらず、企業と学生双方に学習効果をもたらす双方向型の教育機会であることが示唆される。学生は企業案内を通じて主体的な学びを深め、企業や関わった社員は、学生への説明を通じて自社の理念や業務を再認識する機会を得ている。このような「相互作用」は、産学連携の新しい価値創出の可能性を示すものである。

6. 課題

現時点での課題として、学生の交通費負担が挙げられる。香川大学のキャンパスがある高松市から主な CRASSO の体験先である東讃地区までは、電車で片道 850～1,080 円がかかり、学生にとってイベント期間と事前事後の訪問で 5～6 日程度の交通費負担は大きい。企業への訪問回数を限定させないためにも、交通費の確保が課題となっている。

現在も取り組みは続いており、学生は各企業のもとで、企業から出された課題の解決に向けて案を出している。これらの成果については今後まとめていきたい。

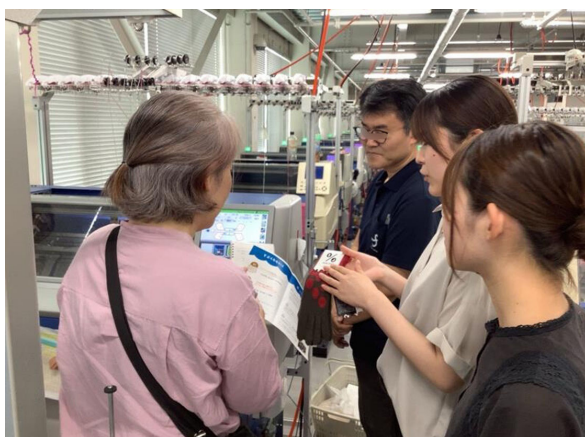


写真1. 学生による来場者への説明



写真2. 学生によるものづくり体験のサポート

【参考文献】

¹ 経済産業省近畿経済産業局「地域一体型オープンファクトリー」, <https://www.kansai.mecti.go.jp/1-9chushoresearch/openfactory/openfactory.html> (2025年11月15日閲覧)

² 岡村祐・豊田純子・川原晋・野原卓「我が国における工場一斉公開プログラム「オープンファクトリー」の開催動向と可能性」公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集 Vol.51 No.3 2016年10月

³ 中小企業家同友会全国協議会「トピックス【変革と挑戦】地域と企業が共に価値を生み出す「コミュニティ」へ オープンファクトリーCRASSO (香川)」 <https://www.doyu.jp/topics/topics-35724> (2025年11月15日閲覧)